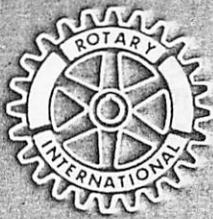


THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ

WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 〒46 千種区池下一丁目4番18号
 井上ビル4F D号
 Tel 763-5110
 会長 水野民也

No.24 (1982~1983)

MANKIND IS ONE-
 Build Bridges of Friendship
 Throughout the World

人類はひとつ
 世界中に友情の橋をかけよう
 1982~83年度 R I 会長 向笠広次

第24回例会 昭和58年2月1日(火)晴

- ◇ “我等の生業”
- ◇ 出席報告
 会員 46名 出席 40名
 出席率 86.96%
- ◇ 前回 1月25日(修正出席率) 97.78%
 make up
 秋山君(1/28港), 青山君(1/28港), 安藤君(1/26多治見), 深見君(1/28岐阜西), 古川君(1/29Makati West, マニラ), 加藤(敏)君(1/27西), 加藤(保)君(1/24東), 河合君(1/27西), 松居君(1/31東), 齊藤君(1/29守山), 菅原君(1/25東京北), 鈴木(正)君(1/26南), 鈴木(猛)君(1/24東), 都築君(1/26南), 山村君(1/31東)
- ◇ ビジター紹介 9名
- ◇ 誕生日祝福
 山村君(1/26), 加藤(大)夫人(2/1), 鶴飼夫人(2/6)
- ◇ ニコボックス
 東RC伴君(しばらく御無沙汰いたしました。ガバナー公式訪問も無事終了されおめでとうございます), 水野(民)君(千種区消防防協力会の件で皆様にお世話をかけます), 黒野君(先日の卓話御静聴いただきありがとうございます), 青山君(結婚記念祝), 加藤(大)君(夫人誕生祝), 鶴飼君(夫人誕生祝, 結婚記念祝), 山村君(誕生祝)
- ◇ 松居幹事報告
 1. 次回例会は午後6時より松楓園に於いてファイアサイドミーティングですので昼間の例会はございません, お間違いのないようお願い致します。
- ◇ 新入会員紹介

氏名 尾関武弘 君
 生年月日 昭和9年7月19日
 事業所 藤定株式会社
 東区東桜 2-17-25
 TEL 931-9301
 地位 代表取締役
 自宅 千種区向陽 1-12-12
 推薦者 水野民也
 職業分類 紳士服卸業
 委員会 親睦活動

◇ 国際奉仕林副委員長報告

トロント大会のご案内が皆様のお手許に届いていると思います。委員長長竹内君と共に、低額費用で内容の充実したスケジュールを作成しました。皆様の多数参加を期待しておりますのでよろしく御検討下さい。

◇ 水野(民)会長挨拶

第24回の例会が行われるきょう、もう2月の声をきいてしまい、月日のたつのが早いのに驚くばかりです。

今日はNHKの大河ドラマの家康にちなみ、この千種の歴史を一寸考えてみたいと思います。

戦国時代の末、織田信長の父信秀の居城であったのが、末森城です。

末森城は覚王山の東、愛知学院大学歯学部に向い側の小高い丘がそれで、標高43m, こんもりと繁る城山八幡社の一帯が城址で、末森山はその西北に位置し、挙母街道を眼下に見下せる地の利を占めた自然の要害でもありました。

三河方面からの今川, 松平氏と美濃からの齊藤氏と戦っていた信秀は、天文16(1547)年この地に築城し、東三河にそなえました。

長男信長は那古野城, 三男信行にはこの末森城をあたえ、自分は古渡城に在ってしばしば末森城も訪ねたようですが、築城2年後病気のため41才か42才で没しています。



その後信行が信長に取って代らんとし柴田勝家、林通勝等を使い稲生ヶ原の戦となり惨敗を喫し、清洲城内で信長に謀殺されてしまいました。その墓は親子共々桃巖寺に祭っております。

この末森城も永禄元年(1558年)に廃城となり、11年の短命な城でした。

またの機会に有名な桃巖寺についてもお話したいと思っております。

◇バナー披露

生駒RC(橋本君)、東京北RC(菅原君)、Makati West RC, Philippines及びHong Kong Island West RC, China(古川君)

◇講演

“私とあじあ号”

会員 青山 敏郎 君



「あじあ号」と申し上げても、直ちにかつての南満州鉄道を快走したあの「陸の王者」と理解される方は少ないと思っております。

この「あじあ号」は昭和9年(1934年)11

月1日に南満州鉄道の大连、新京間に出現した流線型高速度特別急行列車で、この設計を行ったのが私の父であります。

南満州鉄道株式会社は、日露戦争の結果ポーツマスにおいて締結された日露講和条約(明治38年9月)により日本政府が継承したことに始まり、日清両政府間においてもその譲渡に関する承諾を得、やがて明治40年3月5日日本社を大连に、支社を東京に設け、初代総裁として後藤新平氏が任命されその営業を開始するに至ったのであります。

「あじあ号」「パシナ型機関車」は最高速度130km毎時として各部の設計がなされ、全長25.7m、総重量202トン、動車の直径2mと言った当時の機関車としては画期的なものであります。当時の「ハト」「燕」が66km程で走破するに比してもその素晴らしさがかがえるものであります。

また高速による内燃機関には、編成車輛に制限を受けなければならないが、「あじあ号」は堂々7輛編成、定員276名と言う優秀さを誇ったわけで、とりわけ展望一等車はその作りの豪華さで有名でありました。

しかし昭和20年8月の終戦により、39年間の歴史で幕を閉じ、日本人にとっては幻の超特急となったのです。

現在も蘇家屯駅に停車していると思うと、やはり機会を得て「あじあ号」と対面し、今一度自分の手で父の遺作に触れ、その功績により受けた日本政府の勲六等旭日章の意味を

感じたく願っております。

“歯科医療事情”

会員 黒須 一夫 君



歯科の歴史は遠く、エジプト時代にさかのぼり、パピルス・エーベルスに歯の治療法の記載があるとされています。歯科の二大疾患である齲蝕や歯周病は直接生命をおびやかさ

ない場合が多く、未開時代には罹患率もそれほど高くなかったために関心が少なく、歯が痛んでも宗教的なまじないや姑息的な対症療法にまかされることが多かったのであります。

文明が進んで、食事が料理され、軟かいものとなり、砂糖が増加するに従って、これらの疾患の罹患率が次第に増加いたしました。

それとともに医学的な知識が進み、生活が向上して、健康で幸福な日常生活を送るためには歯や口腔が健全であることが必要で、食物を十分に咀嚼してから胃へ送りこむことは全身の健康を維持、増進するためにもきわめて大切であることが意識されるようになりました。

このため、我が国を含め先進国では歯科医療に対する需要と高度な技術に対する要求が増加してきました。

歯科医学とは、歯、顎、口腔の疾患、奇形傷害を予防し、診断し、治療し、失われた歯とそれに関連のある組織を代りのもので補う学問と技術であります。

すなわち歯科医学はその発達史からみると本来は医学の1分科であります。医学から独自の性格をもつようになりました。

このため、歯科医師の教育と歯科医業は、医師の教育、業務と分離されております。

歯科の専門課程の教育陣は基礎系の教授と臨床系の教授20~30名からなっており、その下に助教授、講師、助手が学生の教育にあっております。

歯科医の数は、アメリカ11万人、ソ連10万5千人の順位で全世界60万人おられて、日本は5万6千人程でその意味では歯科医療大国といえます。

◇次回例会(2/8)はフェアサイドミーティングのため卓話はございません。

◇次々回例会(2月15日)

卓話“海外との共存共栄Part I”

会員 安藤銀之助 君

卓話“最近の景気雄感”

会員 河合美雄 君